

親子で夏自由研究ツアー特集!!

銚子ジオパーク市民の会ニュース

屏風ヶ浦 (銚子市)

第119号

2022年9月8日発行

発行責任 工藤 忠男

銚子ジオパーク市民の会

URL: <https://choshigeopark.com>



貝殻標本を作ろう!

田中 豊

7月17日(日)コロナ禍の影響で2年中止されていた標記の自由研究ツアーが、27名が参加し開催された。講師は房州勝也(まさや)氏で、ジオパーク推進協議会事務局(以下「事務局」という)、市民の会会員がサポートした。

当日はあいにくの天候であったが、定刻に開始、君ヶ浜北側(丸山付近)海岸で、講師から注意事項や貝殻採集のポイント等の説明を受け、採集開始したが、早々にわか雨に降られ一時退避。参加者の念力で雨雲を追い払い無事再開。各自自由に約一時間採集し、午前のフールドワークを終了。昼食後、午後は銚子ジオパーク・芸術センター実験室で講師から、銚子で多くの貝が採れる理由、貝の餌(貝の種類により餌が異なる)等の説明を受け、各自採集した貝殻を凶鑑と照らし合わせながら、標本作成に挑戦。直ぐに判るものもあるが、似たものが多く、苦戦の様子。

最後は講師の的確なアドバイスを受け、何とか名前を決定した。磯に降りて採集した子もおり、貝殻の中からインギンチャクが現れ大騒ぎのハプニングも。ある程度まで出来上がったところで後の作業は帰宅後の宿題として、研究ツアーは終了となり、参加者は満足そうに家路に就いた。

メダカ水槽を作ろう!!

向後 和子



7月23日(土)朝から晴天で、この日9家族21人が参加されました。講師は上田専門員です。帽子をかぶり、手にはバケツと小型の魚とり網を持ち、長靴を履いて出発しました。メダカ水槽に入れるカワニナとアオウキクサを採集する為に、銚子ジオパーク・芸術センターの下にある谷津に行きます。傾斜地のうえ、マムシに遭遇する可能性があるので、細心の注意を払い無事到着しました。まずカワニナの採集です。田

んぼの畦の脇を沢の水が流れ

きのこ探検隊!

小玉 健次郎

はじめに、糟谷先生から、きのこは植物でも動物でもないカビと同じ菌類であること、枯れ木や枯れ葉、木の周りの根の近くで生育し、植物と共生したり、植物や昆虫に寄生するなどして、森の中で食物連鎖を形成する重要な役割を果たしている、という説明がありました。採集が始まると、子供たちは見つけるのが得意で、数ミリほどの小さなきのこから、10cmを超える大きなきのこまで、歓声を上げながら大量に採集する

るところにいました。カワニナは水槽に付く藻を食べてくれる水槽の掃除屋さんです。次に新鮮なアオウキクサを採集しました。水槽にはコップ一杯程度で良いそうです。採集したものを銚子ジオパーク・芸術センターで、水槽のレイアウトをします。まず容器に溶岩を配置して水を入れ予め準備して頂いたオオカナダモという水草を入れる。次にメダカを投入して、カワニナとアオウキクサを入れる。これで完成です。ここで、アクシデン

トが起きてしまいました。メス

ことができず。午後は銚子ジオパーク・芸術センターの理科室実験室で、採集したきのこを糟谷先生と学生さんに鑑定してもらい、名前を記載して封筒に入れ、乾燥作業の準備をしました。今回の採集で、千葉県で初めて見つかったきのこ、学名はついていないきのこ、弱毒性のきのこでも、何種類かのきのこを食べ合わせると、毒性が強まることなど、ハラハラドキドキさせるお話があり、参加者は目を輝かせて聞き入っていました。

メダカ水槽を作るために注意して、採集に出発!!



きのこ

